

特別講演会 韓国の農業経済

講師：朴 起煥博士（韓国農村経済研究院）

2012年11月30日(金)午前10時30分～12時 富山大学経済学部201大講義室

レジュメ

○ タイトル：韓国のフードシステムの現況と課題

－農産物の生産・流通・消費を中心として

○ フードシステムとは、フード（農産物：コメ・野菜・果物）の流れに着目

－ 川上（農業生産）→ 川中（流通）→ 川下（消費）

○ このような流れに基づく目次

- ① 国民経済における韓国の農業の位置づけ
- ② 農業の生産の現況
- ③ 農産物の流通の実態
- ④ 農産物の消費の動向
- ⑤ 農食品の輸出入の実績
- ⑥ 農業の展望および課題

○ 各章の要約

- － 韓国の農業の特徴：専業農家が中心（53%）であるが、総人口での農家人口の割合（6%）と国内総生産額での比重（3%）は継続減少、食料自給率は23%
- － 農業の生産：コメの生産量は減少、野菜と果物も全般的に減少、それにもかかわらず、Well-Beingブームによってトマトとカボチャは増加
- － 農業の流通：卸売市場が農産物の流通の中心であるが、品目によって流通経路が異なる、例えば白菜と大根の場合は産地商人への流通比重が高い特徴
- － 農業の消費：コメの消費量は継続減少、野菜は外食の増加とキムチの消費の減少などによって消費量が減っている状態、果物の消費量も全般的に減少
- － 農食品の輸出入：貿易赤字は続いている状況であるが、輸出は大きく増加（11年：77億ドル）
- － 農業の展望：KREI-KASMOモデルを通して推定した結果、農業の持続的な萎縮が予想、安定的な食料の供給のための多様な対策が必要